

第61次南極観測隊にインタビュー



きたざわ ゆうこ

北澤佑子さん

- ・茨城県立守谷高等学校 教諭（理科、専門科目：生物）。好きな食べものはおにぎり、カレー、タコのから揚げ。趣味は科学館や水族館、動物園などに行くこと。



南極観測隊に参加したきっかけはなんですか？

筑波大学大学院のときに、過去に南極地域観測隊員であった教授の講義を受けて「教員南極派遣プログラム」を知り、教員になったらいつか自分も行ってみたいという気持ちが芽生えました。南極について調べていく中で、国立極地研究所に関する記事で「南極では科学も育てるし、人間も育てる」という言葉に心が動かされました。南極には、「科学」にとっても「人」にとっても、そして「教育」にとっても、大切なものがあると考えます。また、南極観測隊等で体験された人たちには熱い志を感じ、私はそれを「南極魂」と名付けました。三度目の挑戦で実現しました。



第61次隊ではどんな研究や仕事をされるのですか？何が楽しみですか？

南極昭和基地から衛星回線を利用して、ライブ中継で「南極授業」を2回行う予定です。1回目は2020年1月25日（土）茨城県自然博物館にて小学生から一般の方たちに向けて、2回目は1月27日（月）茨城県立守谷高校の生徒たちに向けてです。

さまざまな訓練や研修を受け、南極にて観測隊の野外観測チームへの同行や設営作業など観測や設営などにも携わります。昭和基地や南極観測船「しらせ」船内の生活なども含めて、南極観測隊のさまざまなことを勉強させてもらいます。南極の自然に出会えること、観測隊や「しらせ」の皆さんと一緒に協働・共同生活させていただくことなど、すべてが貴重な体験であり、しっかり学んできたいと思います。「南極魂」を肌で感じ学び取って、児童生徒をはじめ多くの人たちに熱く語っていききたいです。



【冬期総合訓練でのルート工作訓練】



一言メッセージをお願いします！

私たちは、人と人とのつながりの中で生きています。私が南極に行くことができるのも、私一人の力ではなく、応援してくれる多くの方々がいたからです。夢を叶えたいと思ったら、人と人との縁に感謝しながら、強い覚悟をもって進んでほしいと思います。